

産業建設常任委員会行政視察報告書

1. 日 程 平成 30 年 10 月 16 日（火）～17 日（水）
2. 視察先 群馬県吾妻郡中之条町 人口 16,323 人（平成 30 年 5 月 1 日現在）
面積 439.28 km²
群馬県館林市 人口 76,446 人（平成 30 年 4 月 1 日現在）
面積 60.97 km²
3. 視察事項 中之条町 ・アートの祭典 中之条ビエンナーレ事業への取り組みと成果について
館林市 ・まちなか創業支援事業について
4. 視 察 者 委員会 白川 克広 委員長 中野 元栄 委 員
滝沢 茂秋 副委員長 安田 憲喜 委 員
保坂 裕一 委 員
当 局 石附 敏春 商工観光課長補佐
随 行 石津 敏朗 議会事務局係長

◎中之条町の概要

群馬県の北西部に位置しており、昭和 30 年に中之条町、沢田村、伊参村、名久田村が合併し、平成 22 年に六合村を編入して現在に至る。

森林が面積の 8 割以上を占め、盆地・河岸段丘・丘陵地などがみられる変化に富んだ景観を成し、南部は比較的平坦で古くから市街地が形成されるなど、町だけでなく吾妻郡の政治、経済、文化、交通の中心として発展してきた。

産業は、米、こんにゃく、野菜、果樹など農業、広大な山林を基盤とする林業、郡内一円を商圈とする商業、製糸や製材から電気機器製造へ主業種が移行している工業、四万・沢渡・尻焼などの温泉と道の駅を拠点とする観光業などが営まれている。

○アートの祭典 中之条ビエンナーレ事業への取り組みと成果について

【事業の目的】

豊かな自然と伝統文化に裏打ちされた地域の魅力をアートの中で発信するイベントとして、また文化・芸術による地域づくりのステージとして 2 年に一度開催している。町内全域に展示される現代アートの作品を通じて、町外からの来場者に中之条町を発見していただくだけでなく、町民にも町の魅力を再発見、再認識してい

ただくことを目的とする。

【内 容】

・ 現在までの事業実績

第一回は平成 19 年 9 月 15 日から 10 月 8 日まで、参加作家 58 名、来場者数延べ 48,000 人、事業費 5,322 千円（うち町補助金 3,200 千円）であった。

全 6 回開催しており、平成 29 年 9 月 9 日から 10 月 9 日まで行われた第 6 回は参加作家 162 組、来場者数延べ 420,000 人、事業費 34,985 千円（うち町補助金 13,200 千円）である。

・ 地域コミュニティの活性化

ビエンナーレの準備、開催期間には、行政区やそれよりも小さい集落単位で作家の展示手伝いや会場受付といった協力を行っている。漬物やおやき等手作り品を販売したり、地元のガイドを買って出る姿も見られたりと、住民と住民、住民と作家、住民と来場者という交流の場ができている。

・ 地域経済への波及

事業に係る物品購入等は町内経済に直結しており、物販品の製造依頼、販売、広報物作成、作家手当（50,000 円／人）など、広域的な経済活動に寄与している。

また、毎回訪れてくれる多くの来場者による消費活動も町内経済にとっても大きな効果を与えており、飲食費や土産物の購入の他に、宿泊や燃料費など直接的な恩恵がある。さらには、作品制作のために滞在する作家による活動経費は一人あたり 30 万円以上と予想される。

・ 町のイメージアップ

様々なメディアに取り上げられたことで、芸術文化のまち中之条というイメージが形成されつつあり、町のブランド化に寄与している。今後も継続していくことで、より一層クリエイティブな町としての知名度向上を期待している。

・ 移住者の増加

事業を契機に、作家やクリエイターの I ターン、地元出身者の U ターンが生まれている。これにより恒常的な芸術文化イベントが可能となる素地が作られた。人が人を呼び、さらなるクリエイターの増加が期待される。

今後は移住定住コーディネーターと協力し、作家が町に滞在できる仕組みづくりを目指していく。

【所 感】

新潟県内でも越後妻有アートトリエンナーレや新潟市で開催される水と土の芸術祭など、芸術を地域づくりに活かした取り組みはみられるが、中之条町の最大の特徴は小さな町が単体で行っているということだろう。そのため、イベント期間外の常設作品は維持費がかかるので設けない等の工夫をしている。

そもそも若手芸術家の育成を目的とした「吾妻美学校」という事業が町内の廃旅館で開催されたことを契機に、身の丈に合った手作りのイベントがいつしか盛大なものとなり、現在の中の条のイメージを創造するに至ったという様子が、担当の方々の話しぶりから推察された。

今後は、移住してきたアーティスト等の協力の下、子どもたちの情操教育に寄与する文化活動を展開するという。

さらにはアートシーンが海外に市場を持つことから、海外との交流事業やインバウンドの拡大へと派生していきたいという展望もうかがった。

少子高齢化、人口減少という環境を踏まえた中で、小さな町が存続すべく活路を見出していく好例の一つではないだろうか。

◎館林市の概要

群馬県の南東部、関東地方のほぼ中央部に位置し、北部は渡良瀬川を挟んで栃木県佐野市に接する。東京へは浅草まで約 70 km と最も近く、東京との交流は密接であり、鉄道や道路などの地理的条件に恵まれている。

昭和の大合併で、1954 年に館林町、郷谷村、大島村、赤羽村、六郷村、三野谷村、多々良村、渡瀬村の 1 町 7 村の合併により館林市が誕生した。

「世界一のつつじと童話で名高い分福茶釜のまち」を標榜し、年間 10 万人の来園者を迎えるつつじが岡公園は市の観光の中心となっている。

○まちなか創業支援事業について

【事業の目的】

館林市の創業者への支援を強化・パッケージ化し、持続性のある個店づくりを支援することで、商業の振興とまちなか（中心市街地）の活性化を図る。

【内 容】

・創設

平成 26 年度（15 年度から「まちなか商業活性化対策事業」として実施していた）

・対象者

新たに商業活動を行う創業者

・対象地域

館林市中心市街地活性化基本計画に定められた中心市街地及びその沿道に接する地域

・交付要件

- ① 申請前に市の行う「創業塾」を受講する
- ② 店舗 PR を営業開始後 6 カ月以内に利用する（ケーブルテレビ）
- ③ 店舗診断を営業開始後 1 年以内に受診する

・補助内容

- ① 空き店舗改装費補助金…対象経費の 1/2（上限 1,500 千円・一回限り）
- ② 空き店舗等賃借料補助金…家賃の 1/2（上限 100 千円/月・一年間）
- ③ 創業者店舗 PR 補助金…ケーブルテレビ出演（経費の全額・10,800 円）
- ④ 創業者への無料店舗診断…中小企業診断士による経営個別相談
- ⑤ 士業導入補助…会計士や労務士等の相談（経費の 1/2 上限 15 千円/月・一年間）
- ⑥ 創業者店舗 PR（広告）補助金…経費の 1/2 上限 45 千円
- ⑦ 利子補給…創業関係の借入金の利子補助（利子全額・2 年間）

・実績（平成 15 年度～平成 29 年度）

店舗 24 店のうち、継続 11 店舗、閉店 11 店舗、移転 2 店舗

・今後の展開

館林商工会議所と連携してリノベーションまちづくり事業（民間が主体となり遊休不動産で事業を運営する手法）との相乗効果を図り、市民が望む暮らしを実現する。

【所 感】

創業者支援として、創業塾から事業の定着までをパッケージ化する政策は他市でもあるが、館林市の場合は補助金についてかなり手厚い印象を受けた。それでも支援を受けた店舗の事業継続はなかなか難しく、担当課としても苦慮している様子が見られたが、今後は「創業支援事業」としてまちなかに限らない支援体制を築き、市全体として盛り上げていきたいとのことであった。

加茂市も個店が減少しつつある中で、こうした支援事業が有効であるかどうか、館林市の今後の推移が大いに参考になると考える。